



第149期 中間報告書

(平成24年4月1日～平成24年9月30日) 証券コード:7731

株式会社 **ニコン**



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
 当社グループ第149期上半期(平成24年4月1日～平成24年9月30日)の
 事業の概況並びに連結決算についてご報告申し上げます。

取締役社長兼
 社長執行役員 **木村 真琴**

当上半期の概況

当第2四半期連結累計期間の経済状況は、欧州債務危機の深刻化の影響を受け、米国及び欧州経済が低迷するなか、アジア経済も拡大が鈍化しました。また、わが国経済は世界経済の景気減速に加え、円高の影響もあり非常に厳しい状況となりました。

事業別では、精機事業においては、半導体・液晶関連ともにメーカー各社の設備投資が冷え込み市場が縮小しました。映像

事業においては、コンパクトデジタルカメラ市場は縮小しましたが、レンズ交換式デジタルカメラ市場は引き続き拡大基調にありました。インストルメンツ事業においては、バイオサイエンス関連は各国公共预算の執行延期により、また、産業機器関連は情報機器端末関連は堅調に推移しましたが、設備投資意欲の低下により、いずれも厳しい状況が続きました。

こうした状況の下、当社グループは、技術力で明確に差別化された競争力のある新製品の継続的な市場投入に加え、生産リードタイムの短縮、コストダウンの推進などにより既存事業

の事業拡大と収益性向上を図るとともに、ニコンブランドを一層拡がりのあるものとするため、ニコンのコア技術を活かせる健康・医療分野を新事業の対象として育成に取り組むなど、事業強化とポートフォリオの改善に努めました。

また、マーケティング、設計、製造、販売、サービスなどの徹底的な改革、グローバルに活躍できる人材の育成、調達・物流のグループ全体での最適化などにより、全社的な事業機能の強化とプロセス改革に取り組むとともに、災害をはじめとする様々なリスクの影響を最小限とするためにグローバル規模でのリスク管理体制の見直し・強化に注力しました。

この結果、第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は4,972億43百万円、前年同期比109億34百万円(2.2%)の増加、営業利益は371億3百万円、前年同期比240億70百万円(39.3%)の減少、経常利益は395億24百万円、前年同期比256億29百万円(39.3%)の減少、四半期純利益は320億22百万円、前年同期比184億14百万円(36.5%)の減少となりました。

当社の中間配当金につきましては、業績を勘案し、1株につき19円、前年同期比2円の増配とさせていただきます。

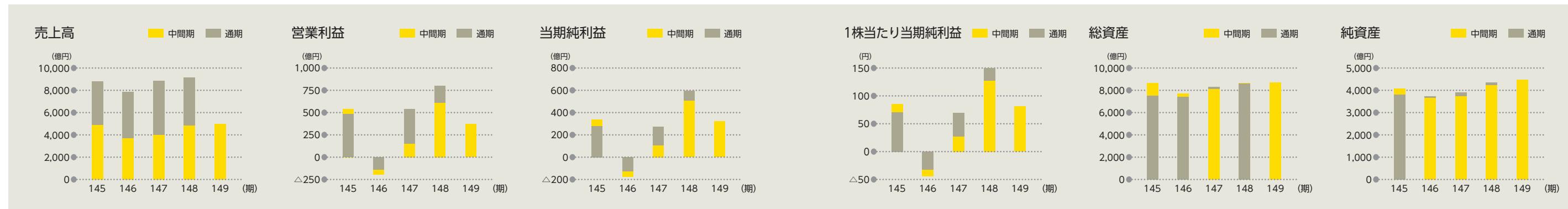
通期の見通し

今後につきましては、映像事業では、競争が一層激化するなど厳しい市況が予想されますが、市場で好評を得ている新製品を中心としたレンズ交換式デジタルカメラの販売数量の増加に伴い、収益は堅調に推移するものと見込んでおります。

一方、精機事業及びインストルメンツ事業では、市場環境の不透明さが増してきており、特に半導体関連分野での設備投資の落ち込みが顕著となってきたことから、いずれも厳しい状況が予想されます。当社としましては、市況の悪化に対し、更なる収益構造の改善を図ってまいります。

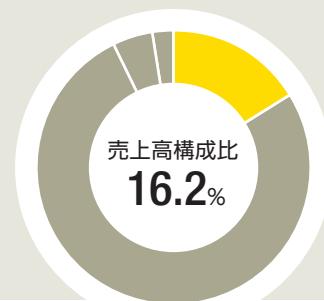
株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年11月



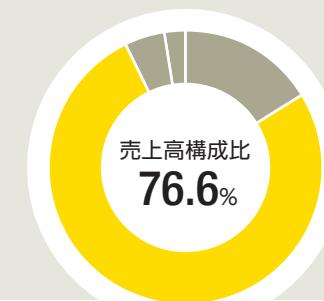
精機事業

パソコン、携帯電話をはじめとする各種情報機器へ搭載される半導体の生産に欠かせない半導体露光装置事業と、薄型テレビやスマートフォンなどに使用される液晶パネルや有機ELパネルの生産を支える液晶露光装置事業から成り、光利用技術及び精密技術を核とした最先端の商品・サービスを提供しています。



映像事業

プロ仕様から初心者向けまでラインナップを取り揃えたレンズ交換式デジタルカメラや交換レンズ、高性能で使いやすいコンパクトデジタルカメラなどの映像関連商品や、その周辺領域の商品・サービスを提供しています。



当上半期の概況

当事業関連市況は、半導体・液晶関連分野におけるメーカー各社の設備投資が冷え込み、特に半導体関連は厳しい事業環境となりました。

このような状況の下、半導体露光装置分野では、ダブルパターニング対応のArF液浸スキャナー「NSR-S620D」や、精度や生産性をさらに向上させた最新型の「NSR-S621D」などの拡販に努めました。

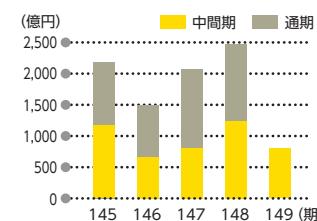
液晶露光装置分野では、従来機種より生産性と解像度を向上させた「FX-66S」を中心に高精細・中小型液晶ディスプレイに最適な装置の販売に注力しました。

また、事業全体を通じて引き続き工期短縮やコスト削減など、収益構造の改善にも取り組みました。

しかしながら、市況の悪化による影響を受け、当事業の売上高は804億29百万円、前年同期比35.6%の減少、営業利益は72億12百万円、前年同期比69.0%の減少となりました。



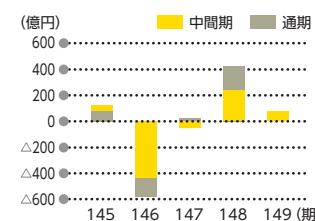
売上高
804億29百万円
前年同期比35.6%減



主要製品

- 半導体露光装置
- 液晶露光装置

営業利益
72億12百万円
前年同期比69.0%減



当上半期の概況

当事業関連市況のうち、コンパクトデジタルカメラ市場は縮小しましたが、レンズ交換式デジタルカメラ市場は拡大基調が継続しました。

このような状況の下、レンズ交換式デジタルカメラにおいては、デジタル一眼レフカメラは好調な販売を継続し、レンズ交換式アドバンスカメラ「Nikon 1」も引き続き堅調に推移しました。

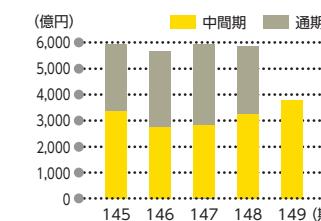
コンパクトデジタルカメラは、光学42倍の超高倍率ズームモデル「COOLPIX P510」や薄型光学18倍ズームの高倍率モデル「COOLPIX S9300」などの販売が好調に推移し、市場が縮小するなか前年同期の販売数量を上回りました。

交換レンズは、レンズ交換式デジタルカメラの販売好調に伴い、特に高価格帯レンズの販売数量を伸ばしました。

これらの結果、レンズ交換式デジタルカメラ、コンパクトデジタルカメラ及び交換レンズは上半期としてそれぞれ過去最高の販売数量を更新し、当事業の売上高は半期として過去最高となる3,810億71百万円、前年同期比17.4%の増加となりましたが、為替の影響等により、営業利益は418億7百万円、前年同期比11.8%の減少となりました。



売上高
3,810億71百万円
前年同期比17.4%増

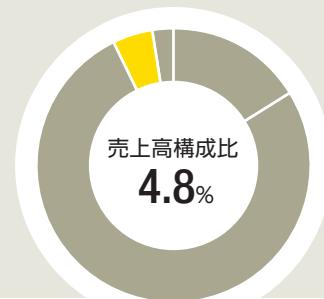


主要製品

- レンズ交換式デジタルカメラ
- コンパクトデジタルカメラ
- 交換レンズ
- フィルムカメラ
- 望遠鏡

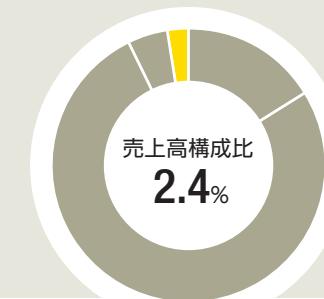
インストルメンツ事業

バイオテクノロジー研究を支える生物顕微鏡などを扱うバイオサイエンス事業と、精密機械部品や半導体関連などで使用される工業用顕微鏡、測定機、半導体検査装置を扱う産業機器事業から成り、最新のデジタル技術と伝統の光学技術を融合した商品・サービスを提供しています。



その他の事業

宇宙関連製品をはじめとする特注機器を扱うカスタムプロダクツ事業、最先端の液晶ディスプレイ用パネルを製造するために欠かせない液晶フォトマスク基板などを扱うガラス事業などがあります。



当上半期の概況

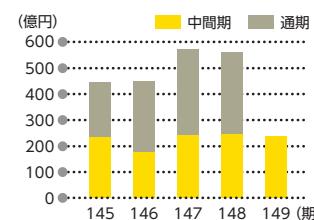
当事業関連市況のうち、バイオサイエンス関連市況では公共予算縮小・遅延の影響を受け厳しい環境となり、産業機器関連市況ではスマートフォンなどの情報機器端末関連は堅調に推移しましたが、半導体・電子部品関連はメーカー各社の設備投資抑制の影響を受けました。

このような状況の下、バイオサイエンス事業では、研究用倒立顕微鏡など一般顕微鏡を中心に販売を伸ばし、市場が縮小するなかシェアを拡大しました。産業機器事業では、半導体・電子部品関連の販売は減少しましたが、情報機器端末関連は測定機などを中心に拡販に努めました。

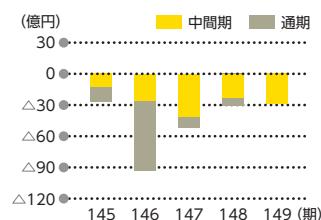
これらの結果、当事業の売上高は237億35百万円、前年同期比3.5%の減少、営業損失は29億77百万円(前年同期は23億70百万円の営業損失)となりました。



売上高 237億35百万円
前年同期比3.5%減



営業利益 △29億77百万円
前年同期は△23億70百万円



主要製品

- 生物顕微鏡
- 工業用顕微鏡
- 測定機
- 半導体検査装置

当上半期の概況

カスタムプロダクツ事業では、固体レーザーと光学部品、ガラス事業では、液晶フォトマスク基板などの拡販にそれぞれ努めました。

この結果、これら事業の売上高は120億8百万円、前年同期比2.7%の減少、営業利益は15億83百万円、前年同期比44.7%の増加となりました。

売上高 120億8百万円
前年同期比2.7%減

営業利益 15億83百万円
前年同期比44.7%増

製品

- 特注機器
- 液晶フォトマスク基板

ホームページのご案内

HP <http://www.nikon.co.jp>

● 投資家情報



● 企業情報



● 製品・サポート

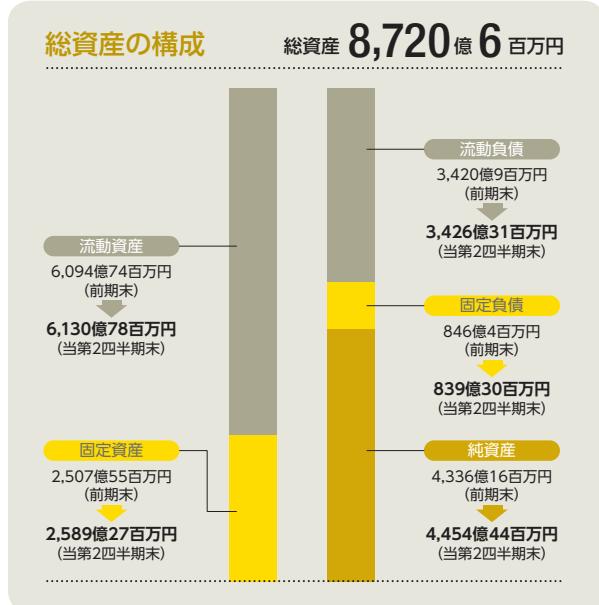


当社ホームページでは、企業情報や財務情報、事業活動や製品情報などをはじめとする様々な情報を掲載しております。当社をよりご理解いただくためにも是非ご覧ください。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末
	平成24年9月30日現在	平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	613,078	609,474
固定資産	258,927	250,755
有形固定資産	145,563	130,943
無形固定資産	32,241	33,085
投資その他の資産	81,122	86,727
資産合計	872,006	860,230
負債の部		
流動負債	342,631	342,009
固定負債	83,930	84,604
負債合計	426,561	426,613
純資産の部		
株主資本	476,135	453,017
資本金	65,475	65,475
資本剰余金	80,711	80,711
利益剰余金	342,851	319,823
自己株式	△12,903	△12,992
その他の包括利益累計額	△31,393	△20,005
その他有価証券評価差額金	△946	3,061
繰延ヘッジ損益	△56	△1,592
為替換算調整勘定	△30,391	△21,474
新株予約権	702	604
純資産合計	445,444	433,616
負債純資産合計	872,006	860,230



連結貸借対照表のPOINT

- 総資産**
当第2四半期連結会計期間末における残高は、8,720億6百万円となり、前連結会計年度末に比べて117億75百万円増加しました。これは、現金及び預金が133億42百万円、受取手形及び売掛金が134億30百万円、未収入金が143億14百万円、それぞれ減少したものの、たな卸資産が420億7百万円増加したこと及び有形固定資産が146億19百万円増加したことが主な要因です。
- 負債**
当第2四半期連結会計期間末における残高は、4,265億61百万円となり、前連結会計年度末に比べて51百万円減少しました。これは、支払手形及び買掛金が194億円増加したものの、未払法人税等が56億39百万円減少したこと及び前受金が179億99百万円減少したことが主な要因です。
- 純資産**
当第2四半期連結会計期間末における残高は、4,454億44百万円となり、前連結会計年度末に比べて118億27百万円増加しました。これは、円高の進展に伴い為替換算調整勘定のマイナス額が89億16百万円増加したものの、四半期純利益の計上により利益剰余金が230億28百万円増加したことが主な要因です。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日
売上高	497,243	486,309
売上原価	313,126	291,337
売上総利益	184,116	194,971
販売費及び一般管理費	147,013	133,798
営業利益	37,103	61,173
営業外収益	3,500	5,317
営業外費用	1,080	1,337
経常利益	39,524	65,153
特別利益	6,788	84
特別損失	654	223
税金等調整前四半期純利益	45,657	65,014
法人税、住民税及び事業税	13,635	14,577
少数株主損益調整前四半期純利益	32,022	50,437
四半期純利益	32,022	50,437

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日
少数株主損益調整前四半期純利益	32,022	50,437
その他の包括利益	△11,387	△13,951
その他有価証券評価差額金	△4,008	△4,790
繰延ヘッジ損益	1,536	2,463
為替換算調整勘定	△8,916	△12,363
持分法適用会社に対する持分相当額	0	739
四半期包括利益	20,634	36,485
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	20,634	36,485

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	② 34,673	26,338
投資活動によるキャッシュ・フロー	③ △35,273	△20,983
財務活動によるキャッシュ・フロー	④ △9,414	△6,949
現金及び現金同等物に係る換算差額	⑤ △3,736	△5,792
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△13,751	△7,387
現金及び現金同等物の期首残高	① 131,711	181,061
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	⑥ 429	536
現金及び現金同等物の四半期末残高	⑦ 118,390	174,210

連結キャッシュ・フロー計算書のPOINT

- 営業活動によるキャッシュ・フロー：②**
当第2四半期連結累計期間は、346億73百万円の収入(前年同期は263億38百万円の収入)となりました。これは、たな卸資産の増加467億円があったものの、税金等調整前四半期純利益を456億57百万円計上したこと及び仕入債務の増加200億39百万円が主な要因です。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：③**
当第2四半期連結累計期間は、352億73百万円の支出(前年同期は209億83百万円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出354億24百万円が主な要因です。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：④**
当第2四半期連結累計期間は、94億14百万円の支出(前年同期は69億49百万円の支出)となりました。これは、配当金の支払83億14百万円が主な要因です。

キャッシュ・フローの推移





FX-67S

新製品 ▶ 液晶露光装置
「FX-67S」

スマートフォン等の普及に伴って需要が拡大している中小型の高精細液晶パネル及び有機ELパネル製造に適したスキャナー方式の露光装置です。新たな調整機構の採用や、独自の解像度向上技術を採用した新開発の照明系、計測ポイントを最適化した新オートフォーカスシステムの搭載によって、線幅2マイクロメートルの高解像度を達成しながら広い実用焦点深度を確保しています。また、測長干渉計軸を新たに増やし、位置計測システムを新設計したことで計測安定性が向上し、±0.5マイクロメートルの重ね合わせ精度を実現しました。処理能力も4インチパネルで毎時20,000枚、7インチパネルで毎時6,900枚*と高スループットで、生産性の向上に貢献します。

*1,300mm×1,500mmプレートサイズの場合。

新製品 ▶ レンズ交換式アドバンスカメラ
「Nikon 1 J2」「Nikon 1 V2」

新たな映像表現とその楽しみ方を提案するレンズ交換式アドバンスカメラ「Nikon 1 J2」シリーズ・Vシリーズの新ラインナップとして「Nikon 1 J2」「Nikon 1 V2」を発売しました。

「Nikon 1 J2」は、金属を取り入れた高級感のあるデザインを採用したほか、自分のスタイルに合わせて選べる個性豊かな6色のカラーバリエーションを揃えました。また、新たに追加した「クリエイティブモード」により、夜景ポートレートなど8種類の画像効果を設定するだけで、簡単に多彩な表現を楽しむことができるほか、レンズのズーム操作によるカメラ電源オン・オフ切り換え機能や、視認性を向上させた高精細な約92万ドットの液晶モニターを搭載し、ユーザビリティも一層向上しました。

「Nikon 1 V2」は、電子ビューファインダーやフラッシュを内蔵した世界最小・最軽量*ボディに、撮影したシーンをスローで表示し、再生される動画を見ながらベストな瞬間を静止画として切り取ることができる「スロービュー」などの機能を搭載しています。気軽に使えるサブ機を求めているデジタル一眼レフカメラユーザーや、オート撮影だけでなく自分で設定・調整をしながら作品づくりをしたいコンパクトデジタルカメラからのステップアップユーザーに最適なモデルです。

*電子ビューファインダー、内蔵フラッシュ搭載のレンズ交換式デジタルカメラとして。
(平成24年10月24日現在、当社調べ)



Nikon 1 J2



Nikon 1 V2

新製品 ▶ デジタル一眼レフカメラ
「D600」

FXフォーマット*を採用したデジタル一眼レフカメラとして最小・最軽量、優れた描写性能と高い基本性能を実現し、より幅広いユーザー層にFXフォーマットモデルを手軽に楽しんでいただくために開発したモデルです。コンパクトで軽量のボディに、有効画素数約2,400万画素の新開発CMOSセンサーをはじめ上位機種から高度な機能や性能を継承。さらにフルHD動画に対応し、「マルチエリアモードフルHD DMムービー」を搭載するなど、動画撮影機能の利便性も高めています。

*35mmフィルムサイズに準じたニコンの撮像フォーマットです。ニコンのデジタル一眼レフカメラの撮像フォーマットには他に、FXフォーマットより小さいDXフォーマットもあります。



D600

新製品 ▶ コンパクトデジタルカメラ
「COOLPIX S800c」「COOLPIX S01」

「COOLPIX S800c」はAndroid™ *1 搭載、Wi-Fi® *2 対応により、スマートフォンのような操作感とワイヤレスでのインターネット接続を実現しました。スマートフォンのカメラ機能では難しい望遠写真やブレの少ない高画質な作品をカメラから直接SNSなどにアップロードでき、ニコンが提案するデジタルカメラの新たな楽しみ方である「撮る」「見る」「つながる」「楽しむ」を1台で実現したモデルです。

「COOLPIX S01」は、幅約77mm×高さ約51.2mm×奥行き約17.2mmの手のひらに収まる約96gのCOOLPIX史上最も最小・最軽量モデル。デザインや素材にもこだわり、段差のない滑らかなフォルムにステンレス素材を活かした美しい表面仕上げを施しました。また、直感的なタッチ操作など、使いやすさにもこだわり、使うこと・持ち歩くことが楽しくなるカメラです。

*1 Androidは、Google Inc.の商標です。 *2 Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。



COOLPIX S800c



COOLPIX S01

新製品 ▶ 工業用顕微鏡
「ECLIPSE LV-Nシリーズ」

半導体、フラットパネルディスプレイ、電子部品、素材・材料分野の観察、検査、研究及び解析用途など多くの場面で活用される工業用顕微鏡。「ECLIPSE LV-Nシリーズ」は、顕微鏡用デジタルカメラDigital Sightシリーズとの連携機能を強化し、顕微鏡+デジタルカメラとしての操作性の向上を図りました。また、新開発の「CFI60-2対物レンズ」を搭載し、現行のCFI60対物レンズにおいて高い評価をいただいている「光学性能」と「長作動距離化」による使いやすさを、「位相フレネルレンズ」の採用などによりさらに向上させました。

*右の画像では高精細カラーカメラヘッド「DS-Fi2」、カメラコントロールユニット「DS-L3」を装着しています。



ECLIPSE LV100ND

NEWS

デジタル一眼レフカメラ「D4」「D800」の2製品が「EISAアワード」を受賞

欧州を代表する権威ある「EISA アワード」において、デジタル一眼レフカメラ「D4」が「ヨーロッパ プロフェッショナルカメラ 2012-2013」を、「D800」が「ヨーロッパ カメラ 2012-2013」を受賞しました。

「D4」は、高感度・高画質と優れた高速性能を実現したフラッグシップモデルです。堅牢なボディーや優れた高速連続撮影性能などが評価されました。

「D800」は、世界最高*有効画素数36.3メガピクセル、圧倒的な高精細・高画質を実現したモデルです。コンパクトで手頃な値段でありながらも、高解像な撮影が可能な点が評価されました。今年の「TIPAアワード2012」では「ベスト エキスパート デジタル一眼レフカメラ」を、国内では「カメラグランプリ2012大賞」「カメラグランプリあなたが選ぶベストカメラ賞」を受賞しており、国内外から高い評価を得ています。

*35mmフィルムサイズに準じた撮像素子搭載のレンズ交換式デジタル一眼レフカメラにおいて。
(平成24年8月30日現在、当社調べ)



NEWS

「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定 電気・精密機器部門」で初の第1位を獲得

ニコンは、「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」(平成24年度)において、評価対象全16業種243社のうち、最多の25社で構成されている電気・精密機器部門において、初めて第1位に選定されました。

本選定は、公益社団法人日本証券アナリスト協会が企業情報開示の促進・向上を目的として平成7年度に開始し、今回で18回目を迎える表彰制度です。

経営陣のIRに対する姿勢や決算説明会における説明及び質疑応答、さらに事業の技術説明会等を開催したことなど、IRへの積極的な姿勢が高く評価されての受賞となりました。

ニコンは、「信頼と創造」を企業理念とし、企業情報を積極的かつ公正に開示することを基本姿勢としています。今後も経営姿勢や事業活動、製品及び技術情報などを広く提供することで、株主・投資家の皆様のニコンへの理解をより一層深めていただく活動を推進していきます。

NEWS

「2012年版アフターサービス満足度ランキング」のデジタルカメラ部門で第1位を獲得

ニコン及びニコンイメージングジャパンは、「日経ビジネス」誌による「2012年版アフターサービス満足度ランキング」でお客様から高い評価をいただき、過去13回の調査において9度目となるデジタルカメラ部門第1位を獲得しました。

ニコン及びニコンイメージングジャパンは、インターネットを利用した修理申し込みの発送・返送料の無料化など、アフターサービス向上に向けた取り組みを継続的に実施しています。また、東日本大震災を機に開設された「ニコンプラザ仙台」は地域の支援活動拠点として活用されるとともに、製品のサポート業務なども行っています。

今回の評価は、ニコンのアフターサービス活動への総合的な評価と捉えております。今後もお客様のニーズや期待にお応えできるよう、サービスの向上に努めてまいります。

(平成24年9月30日現在)

会社概要

社名(英文社名) 株式会社ニコン(NIKON CORPORATION)
本店所在地 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
TEL (03) 3214-5311
設立年月日 大正6年(1917年)7月25日
資本金 654億75百万円
従業員数 単体 6,707名/連結 24,484名

役員及び執行役員

1. 取締役及び監査役

取締役社長 木村 眞琴
取締役兼CFO 伊藤 純一
取締役 牛田 一雄 正井 俊之 岡本 恭幸 橋爪 規夫
大木 裕史 金澤 健一 松尾 憲治 樋口 公啓
常勤監査役 河合 芳道 長井 良幸
監査役 可児 晋 上原 治也 畑口 紘

2. 執行役員

社長執行役員 木村 眞琴
副社長執行役員 伊藤 純一
専務執行役員 牛田 一雄
常務執行役員 正井 俊之 岡本 恭幸 橋爪 規夫 川端 邦雄
大木 裕史 本田 隆晴 金澤 健一 馬立 稔和
小坂 庸雄
執行役員 森下 耕二 風見 一之 今 常嘉 御給 伸好
浜田 智秀 中島 正夫 下田 治 岩岡 徹
吉川 健二 中村 温巳 小田 島匠 長塚 淳

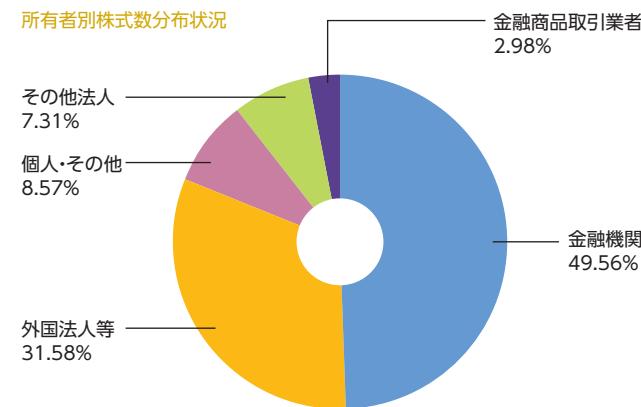
事業所

本 社 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
大井 製 作 所 〒140-8601 東京都品川区西大井1-6-3
横 浜 製 作 所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台町471
相模原製作所 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-10-1
熊 谷 製 作 所 〒360-8559 埼玉県熊谷市御稜威ヶ原201-9
水 戸 製 作 所 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町276-6
横須賀製作所 〒239-0832 神奈川県横須賀市神明町1-15

株式の状況

発行済株式総数 400,878,921株 (比率は小数点以下第3位を四捨五入)
株主数 23,426名

所有者別株式数分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,682	8.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	28,816	7.27
ジェーピー モルガン チェース バンク 380055	22,505	5.68
明治安田生命保険相互会社	20,565	5.19
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	19,395	4.89
東京海上日動火災保険株式会社	8,054	2.03
日本生命保険相互会社	7,893	1.99
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	7,661	1.93
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,378	1.86
株式会社常陽銀行	6,801	1.71

(注)持株比率は自己株式数(4,312,495株)を控除して計算しております。

本報告書は、注記のない限り、次により記載しております。
1. 記載金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切捨て
2. 比率は、小数点以下第2位を四捨五入

株式に関するお手続きについて

■証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
◎郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ◎支払期間経過後の配当金に関するご照会 ◎株式事務に関する一般的なお問合せ	14ページの「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。
◎上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

■特別口座に記録された株式*

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先				
◎特別口座から一般口座への振替請求 ◎単元未満株式の買取(買増)請求 ◎住所・氏名等のご変更 ◎特別口座の残高照会 ◎株式事務に関する一般的なお問合せ	14ページの「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。 なお、お手続き書類につきましては、以下の方法でもご請求いただけます。				
	<table border="1"> <tr> <td>手続き書類のご請求方法</td> <td>音声自動応答電話によるご請求 …… 0120-244-479 (通話料無料)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>インターネットによるダウンロード …… http://www.tr.mufg.jp/daikou/</td> </tr> </table>	手続き書類のご請求方法	音声自動応答電話によるご請求 …… 0120-244-479 (通話料無料)		インターネットによるダウンロード …… http://www.tr.mufg.jp/daikou/
手続き書類のご請求方法	音声自動応答電話によるご請求 …… 0120-244-479 (通話料無料)				
	インターネットによるダウンロード …… http://www.tr.mufg.jp/daikou/				

*株券電子化制度の施行時までに証券保管振替機構(ほふり)に預託されず、その後特段のお手続きをされていない株式は、法令に基づき当社が開設している特別口座に記録されています。特別口座は証券市場での売買を行うことができないなどの制約があります。ご所有の株式が特別口座に記録されている株主様は、14ページの「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部にお問合せのうえ、お早めに証券会社等の口座にお振替いただきますようお願い申し上げます。特に、株券電子化施行日に当時の単元未満株式(1株~999株)を所有されていた株主様、お手元当社株券がある株主様は特別口座が開設されている可能性がありますのでご確認ください。

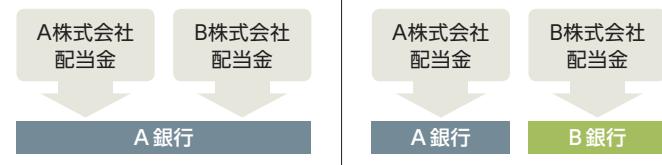
配当金の口座受取り制度のご案内

銀行口座での受取りを希望する方

●登録配当金受領口座方式

お取引の証券会社のうち1社にお申し出いただくことで、ご所有の全銘柄の配当金を1つの銀行口座*でお受取りいただけます。

* (株) ゆうちょ銀行は、指定できません。



●個別銘柄指定方式

株式をご所有の銘柄ごとに銀行口座を指定して、配当金をお受取りいただけます。



証券会社口座での受取りを希望する方

●株式数比例配分方式

お取引の証券会社の証券口座で配当金をお受取りいただける方式です。同一銘柄を複数の証券会社の口座でご所有の場合は、各証券会社のご所有株式数に応じた配当金が証券口座に入金されます。

*ご所有の株式の一部が特別口座で管理されている場合などは、選択できません。
*ご所有の株式の一部が、株式数比例配分方式の配当金受取方法を採用していない証券会社にご預託の場合は選択できません。詳しくはお取引の証券会社にお問合せください。



お手続き・お問合せ先 配当金の口座受取りに関するご相談は、お取引の証券会社等(口座管理機関)にお申し出ください。

『復興特別所得税』に関するご案内

上場株式等の配当等に係る所得税に対し、平成25年1月1日から平成49年12月31日まで、復興特別所得税として所得税額×2.1%が追加課税されることとなります。

〔東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法(平成23年法律第117号)〕の施行に伴い、平成25年1月1日以降に支払われる上場株式等の配当等に係る所得税に対し、下記のとおり追加課税されることとなりますので、ご案内いたします。

*証券税制における軽減税率の適用終了による税率の変更です。

	平成24年12月31日まで	平成25年 1月 1日から 平成25年12月31日まで	平成26年 1月 1日から 平成49年12月31日まで	平成50年1月1日から
所 得 税	7%	7%	15%*	15%
復興特別所得税	—	0.147%	0.315%	—
住 民 税	3%	3%	5%*	5%
合 計	10%	10.147%	20.315%	20%

- ・源泉徴収が行われる場合の税率です。ただし、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
- ・本ご案内の内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄の税務署、税理士等にお問合せください。
- ・本ご案内は平成24年8月時点の情報をもとに作成しております。

株主メモ

事業年度 4月1日~翌年3月31日

期末配当金
受領株主確定日 3月31日

中間配当金
受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

単元株式の数 100株

公告の方法 電子公告により行います。
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.nikon.co.jp/ir/bp/index.htm>

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。



株式会社 **ニコン**

〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1 (新有楽町ビル)
<http://www.nikon.co.jp>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

